

小学校第5・6学年道徳学習指導案

平成28年12月 9日（金） 第5校時

児童 5年 2名 6年 4名

授業者 永橋 貴恵

1. 主題名

わが町の誇りと伝統 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 小学校 高 C (17)

2. ねらいと教材

(1) ねらい

和太鼓の持つ素晴らしさに心を動かされた佳代の気持ちを通して、伝統文化は私たちの身近であることに気づき、郷土の伝統や文化を自分たちも継承しようとする態度を養う。

(2) 教材名

「和太鼓調べ」 (新 生きる力 5年 日本文教出版)

3. 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

国を愛する心のもとになるものは、自分が生活している「ふるさと」郷土を愛する心である。高学年では、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。指導にあたっては、郷土を愛する心を育てるためには、地域の伝統や文化を大切にしている地域の人々の努力を知り、地域の行事や活動に積極的に関わろうとする態度を育てることであると考える。

そこで総合的な学習の時間等の活動で、「獅子舞」を地域の人たちに習うことを通して、道徳の授業「和太鼓調べ」で更に郷土の伝統文化のすばらしさに気づき、自分の住む地域の人々の生活、文化、伝統、地域の伝統と文化に親しみ、大切にしようとする気持ちを一層高めていくようにしたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

自分が生活しているこの中浜地区を誇りに思う児童を育てることが、私たちの国、日本を誇りに思う児童の育成へとつながっていくものと考えている。

本学級の児童は放課後子ども教室で、地域の人たちに中浜地区に伝わる（獅子舞）のお囃子としての和太鼓のたたき方を習ってきている。総合的な学習の時間にも「獅子舞」の歴史について学習し、6年生は「獅子舞」の舞を5年生はお囃子の型やリズムを体験し、地域の伝統についての知識は一定持っている。

今年度は1月に行われる「ジョン万ふれあい祭り」で、全校児童で「獅子舞」を披露する場を設定している。披露するにあたって練習で関わったりする時間の中で、地域の人たちの思いや伝統文化を受け継いでいる人たちの思いや願いに気づくであろうし、改めて郷土に関心を持ち、更に「獅子舞」等に関わろうとする態度を育て、郷土の伝統文化（「中浜地区の獅子舞」）を大切にしていこうとする気持ちを高めるようにしたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

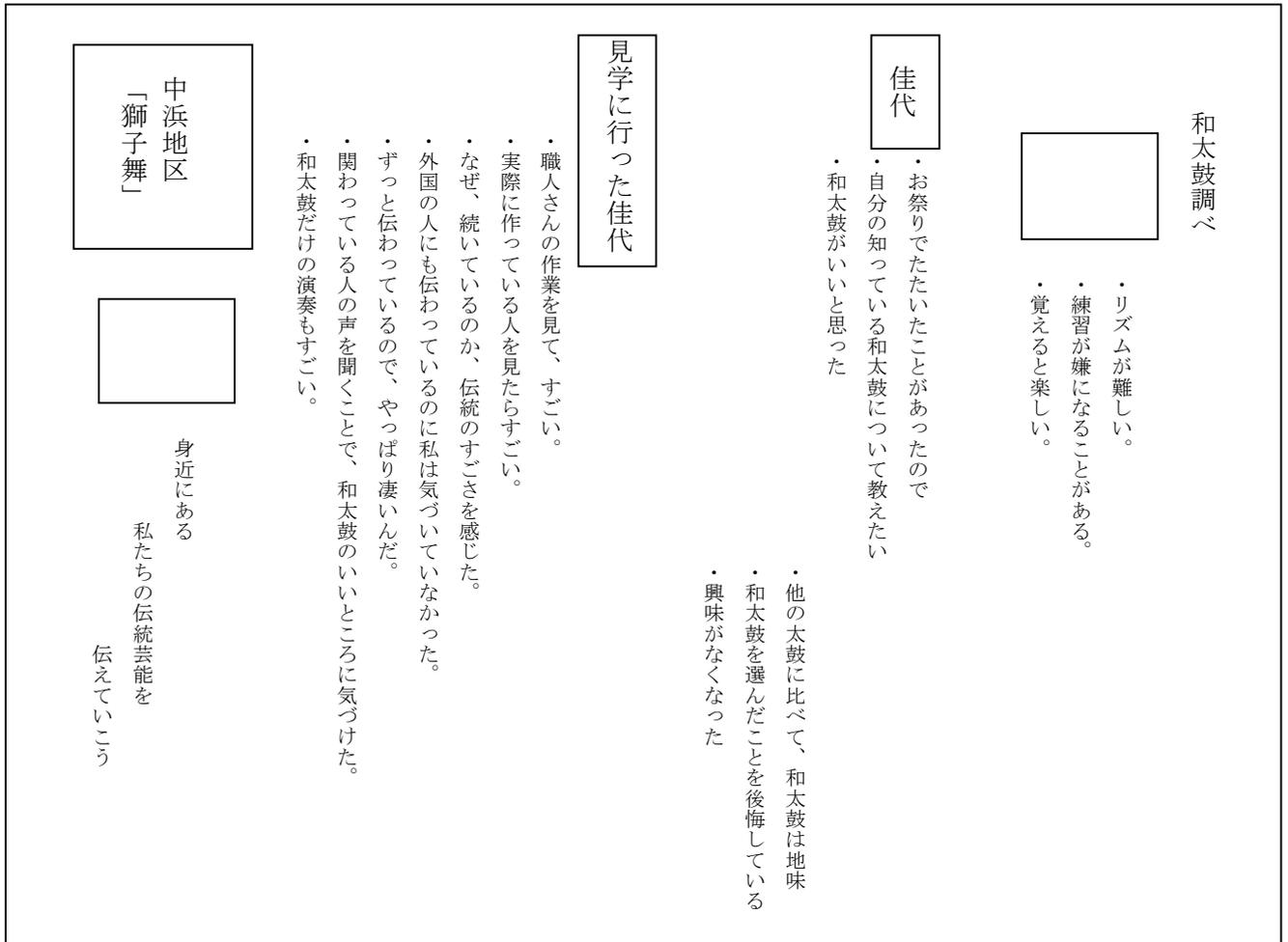
本教材は、和太鼓を調べることになった佳代が、他のグループが調べている太鼓に比べて、和太鼓は「なんだか、地味だ」と感じ学習意欲が薄れていくが、和太鼓作りの見学や職人さんの和太鼓作りに対する思いを知ることにより再び意欲がわいてくる話である。「佳代の気持ちが変わったのはどうしてだろう」と考えさせることによって児童は伝統や文化の良さや、それに関わる人々の思いに触れることができる。導入では、中浜地区の「獅子舞」の伝統行事について知っていることや気持ちを発表し合うことで、佳代の気持ちを考えやすくする。展開では、和太鼓を調べる佳代の気持ちと、和太鼓作りになり気になれない気持ちを考える。他の太鼓を調べているグループをうらやましく思う気持ちを出させたい。終末では佳代が見学に行く前の自分を恥ずかしいと思ったのはなぜかを考えることを通して、和太鼓作りの職人さんたちの姿や思いに感動する佳代の気持ちの変容に共感させ、伝統文化とそれに関わるすばらしさを感じ取らせたい。

4. 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点
導入	(1) 中浜地区に伝わる「獅子舞」を習っている気持ちを発表し合う。	①「獅子舞」の練習に、みんなはどんな気持ちで参加していますか。 ・難しいけど、練習していくとだんだん面白くなってきたな。 ・リズムが難しいな。 ・覚えると楽しくなってきたな。	○「獅子舞」を習っている時の気持ちを思い出させる。(写真を見せる。)
展開	(2) 資料「和太鼓調べ」を読んで話し合う。 ・P.36～P.37の11行 ・P.37の11行～P.39 価値の交流場面＝対話	②佳代が、和太鼓を選んだのはどうしてだろう。 ・お祭りでたいたことがあってから調べてみたい。 ・自分の知っている和太鼓について、教えたいと思ったから。 ・和太鼓がいいと思ったから。 ③由加が佳代を和太鼓作りの見学に誘った時、佳代が見学にあまり乗り気になれなかったのはどうしてでしょう。 ・他の太鼓に比べ、和太鼓が地味に思ってきた ・和太鼓を選んだことを後悔してきた。 ・興味がなくなり、行きたくない気持ちになった。 ④見学に来る前の佳代と今の佳代の違いは何だろう。 ・見た目で決めていた自分の考えが、職人さんの作業を見て、すごいと思えた。 ・地味な和太鼓を選んで後悔していたが、実際に作っている人の様子を見て、すごさを感じた。 ・なぜ続いてきたのか、伝統の力を知った。 ・外国の人にも和太鼓のすばらしさが伝わっているから。 ・ずっと伝わってきているので、やっぱり凄いものがある。 ・関わっている人の声を聞くことで、和太鼓のいいところに気づくことができたから。 ・和太鼓だけで演奏するよさに気づけたから。	○和太鼓について、関わったことがあるので、自分から進んで選んだことを押さえさせる。 ○いろいろな種類の太鼓があり迷いだしたことを押さえさせる。 ○DVDをみせる。 ○職人さんたちの姿や思いにふれたことにより和太鼓への思いがだんだん変わっていく佳代の気持ちをじっくり考えさせる。 ○個(ノートに考えを書かせる)→全体(みんなで協議させる) ○和太鼓を思う気持ちに共感させる。
終末	(3) 「獅子舞」を教えてください、叔父さんの話を聞く。 (4) 授業後の感想を書く。	⑤話を聞いて、感じたこと思ったことを発表しましょう。 ○「心のノート」に感想を書く。	○「獅子舞」という身近な伝統文化について、しぶんのこれからの関わり方について考えさせる。 ○ゲストティーチャーの話を聞く。

【 評価 】 佳代の心の変化に気づき、自分の考えを伝えている。(発言・ノート)

5. 板書計画



6. 準備物 場面絵 ・「心のノート」(自校) ・ 自分たちの「獅子舞」の時の写真 ・ テレビ

7. 他の教育活動との関連

